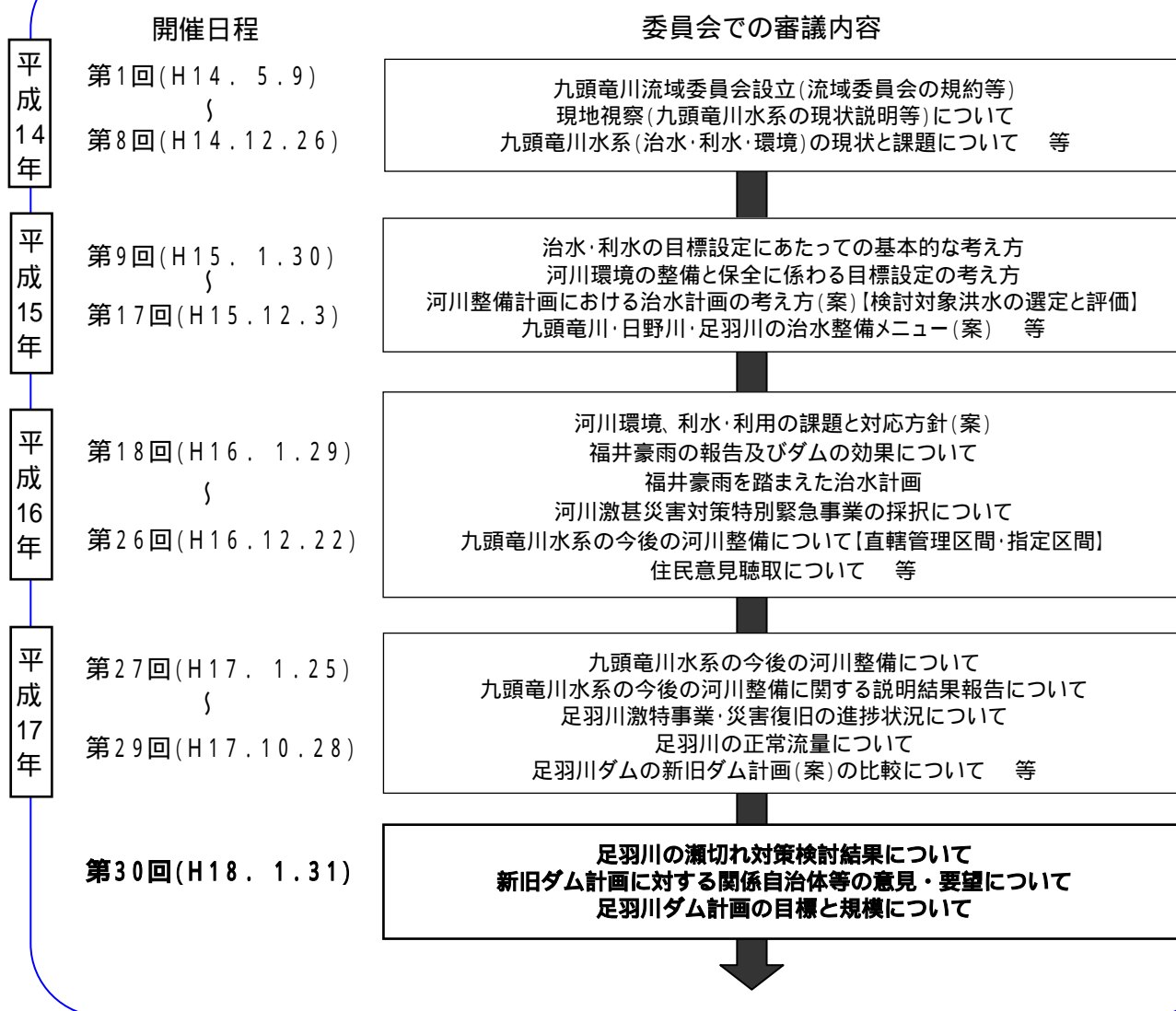


## 第30回流域委員会の審議骨子

第30回「九頭竜川流域委員会」が平成18年1月31日に福井県国際交流会館において開催されました。



### これまでの九頭竜川流域委員会の経緯



## 第30回流域委員会の審議骨子

当日は18名の委員が参加し、河川管理者から、国の方で審議された「九頭竜川水系河川整備基本方針」の状況がなされた。その後「足羽川の瀬切れ対策検討結果について」、「新旧ダム計画に対する関係自治体の意見・要望について」及び「足羽川ダム計画の目標と規模について」の説明がなされ、意見交換が行われました。

### 1. 足羽川の瀬切れ対策検討結果について

「足羽川の瀬切れ対策検討結果について」に関して説明された主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) 瀬切れ対策の検討方針
- (2) 瀬切れの影響把握
- (3) 瀬切れ対策の検討
- (4) 瀬切れ対策の検討結果
- (5) 瀬切れ対策に関するまとめ

以上の説明をされた後に、次のような質問や意見が出されました。

1. 「足羽川ダムに瀬切れ解消のための容量を確保する」案は、どのような点から環境に負荷がかかると判断したのか？  
現在の環境自体が足羽川環境であり、人為的に川の水量を変えることは、今まできあがっている環境を変えることになる。また、ダムによる湛水は、ダム上流側の環境に与える影響も大きい。
2. 足羽川の瀬切れ解消のために正常流量の見直しはしないのか？  
足羽川については、今ある瀬切れの状態を受け入れることと判断した。
3. 足羽川の自然について「負荷をかけない、我慢できるところはできるだけ我慢する、自然体系をそのままにする」という今回の報告は画期的なものと思う。
4. 足羽川の瀬切れについては、適切な農業用水の配分や指導等によって解消に努めていくべき。
5. 足羽川では、流況を改善するニーズが大きくなかった点と、瀬切れ解消のためかなりの水量が必要であるという判断から、ダムによる補給に頼らないという結論に達したと考えられる。
6. ダムに貯めた水が富栄養化すると、その水質を改善するために費用が必要となる。足羽川ダムでも、水を貯めることによって富栄養化し、相当費用がかかるようになると思われる。
7. 足羽川ダムは、瀬切れ解消のために常時水を貯めない型式とする。

## 第30 回流域委員会の審議骨子

### 瀬切れ対策の検討結果

案：水利権者との調整  
流域の変化を踏まえた長期的観点からの調整が必要  
案：湧水の利用  
小規模な掘削では困難  
案：放棄田の利用  
放棄田の利用は困難  
案：ダム供給  
環境・コストに負荷がかかる

瀬切れを解消する対策として  
～ は実現性が低い  
～ は環境・コストに負荷がかかる

### 瀬切れ対策に関するまとめ

#### 瀬切れによる影響

農業、漁業、景観、生態系について農業漁協関係者、地域住民や専門家の意見  
必ずしも流水を確保しなければならないというものではない

#### 瀬切れ解消の検討結果

案～案：実現性が乏しい  
案は環境・コストに負荷がかかる

#### まとめ

長期的な観点からは、水が流れている足羽川が望ましい。  
瀬切れ解消の緊急性は乏しい。

## 2. 新旧ダム計画に対する関係自治体等への意見・要望について

「新旧ダム計画に対する関係自治体等への意見・要望について」に関して紹介された。

8. 前回（第29回）の池田サイトと美山サイトの比較は、治水専用ダムを前提に行ったものか？

洪水調節専用の水の貯めない施設という前提条件で、その容量、高さ、水没地域の影響等について説明があった。

### まとめ

各自治体等の意見・要望を要約すると

- ・ダム計画の早期確定
- ・建設工事の早期着手
- ・治水効果の早期発現

## 3. 足羽川ダム計画の目標と規模について

「足羽川ダム計画の目標と規模について」に関して説明された主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) ダム計画に関するこれまでの説明経緯
- (2) 整備計画の目標流量・整備計画期間中に整備するダム
- (3) 基本方針の目標流量・基本方針に対応するダム
- (4) 事業費・社会的影響・環境的影響 等

以上の説明を実施された後に、次のような質問や意見が出されました。

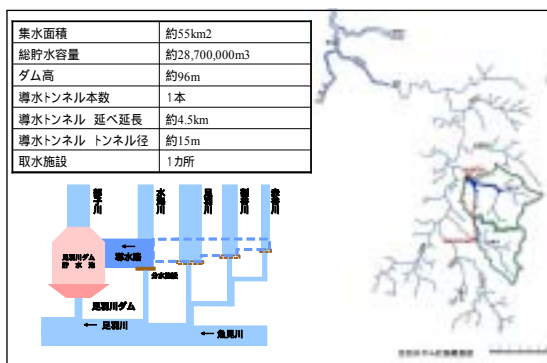
## 第30 回流域委員会の審議骨子

- 9 . 整備計画で議論してきた足羽川ダムの規模は？  
天神橋地点で  $2,400\text{m}^3/\text{s}$  を  $1,800\text{m}^3/\text{s}$  に調節するために、ダムの洪水調節容量は  $13,700$  千  $\text{m}^3$  で、ダム高は  $76\text{m}$  になる。
- 10 . 基本方針対応のダム高  $96\text{m}$  の事業費は？  
基本方針対応の洪水調節専用の常時水を貯めないダムを整備した場合、およそ  $1,500$  億円程度の事業費となる。
- 11 . 計画している「穴あきダム」とは、どのようなものか？  
足羽川で計画しているダムは、常時は水を貯めず、洪水のときに貯水する洪水調節専用ダムで、土砂の扨止はほとんどなく、魚の遡上効果も見込める構造を考えている。
- 12 . 当面  $20\sim 30$  年での整備では、どの程度の事業費となるのか？  
全体のおおよそ  $6\sim 7$  割程度の費用が必要と考えている。
- 13 . 整備計画では、福井豪雨を含む戦後最大規模の洪水を対象にしてきたが、基本方針ではなぜ  $150$  年に一回程度の洪水を対象にするのか？ なぜ初めから  $1/150$  で議論しなかったのか？  
基本方針での安全度は、国が設置する社会資本整備審議会により九頭竜川水系の地域特性である流域の人口・資産・産業や、氾濫被害等を踏まえ定められている。これがいわゆるマスタープランとなり、整備計画はこのプランに沿って段階的に整備を進めていく位置づけである。
- 14 . ダム計画を早期確定していくためには、地権者の方々の協力が必要であり、その協力に対して感謝の気持ちを忘れてはならない。
- 15 . 用地買収を行う場合は、基本方針対応のダム規模を見据えて一気をお願いしたい。
- 16 . 整備計画での河川の自然再生は、ハードの整備と並行して、 $20\sim 30$  年のスパンの中で地域の人たちや専門家と共に取り組んでいくべき。
- 17 . 既存の施設を有効活用していく時代になりつつある中で、ダム建設という新規の公共投資を実施するということは大きな決断である。
- 18 . 整備計画では、生命・財産を守るという安全面と同時に、地域の自然と文化を守るということについても配慮していくべき。
- 19 . ダムや導水路をつくることによって、環境にどのようなインパクトがあるのかしっかりと検討すべきである。その結果については、地元にとしっかりと説明するべき。
- 20 . 環境影響評価では、計画を定める前に環境に与える影響を評価することはできないのか？  
事業計画としてある程度のところまで完成しないと実際の環境影響評価までの検討には至らない。

## 第30 河流域委員会の審議骨子

- 2 1 . 基本方針では、今回提示したダム計画以外の方法についても検討をしたのか？  
河道改修、遊水地、あるいは部子川以外でダムをつくった場合等について検討を行い、コスト面、社会的な影響面等を考慮して今の結論に達した。
- 2 2 . ダム高を 76m にするか、96m にするかは、コスト・環境負荷の面でも非常に差が大きいのので、慎重に決めるべき。
- 2 3 . 無駄な公共事業はいけない、子孫に憂いを残さないようしっかりとした計画としていくべき。
- 2 4 . ダムは 30 年で償却してしまう、耐用年数が来てしまうという構造物ではないので、その先を見据えて、どういう投資をして構造物をつくるのが技術的にも経済的にも合理的かという点で判断するべき。
- 2 5 . 近年、絶対安心だという神話が崩れていく中で、治水安全度についても慎重に決めていくべき。
- 2 6 . 洪水調節専用ダム + 導水路にすれば環境に影響がないというわけではない。今回の計画が環境面に対してどの程度フォローできるようになるかを考えることが重要である。
- 2 7 . 漁業面から見て、洪水調節専用ダムを設置した場合でも、期待できる環境を確保するのはなかなか難しいのではないかと。
- 2 8 . 生物のデータには賞味期限があるので、常に新しいデータで環境評価をすることが重要。導水する水海川、足羽川、割谷川、赤谷川についても最新の調査データに基づき評価をすべき。
- 2 9 . 環境影響評価をする場合、動植物も大事であるが、ダムをつくることによって、町で生活している人たちの生活基盤がどのように変化し、どう影響を及ぼすようになるのかの評価も重要である。

### 整備計画期間中に整備するダム



### まとめ

整備計画期間中に整備するダムは、基本方針に対応するダム計画を見据えて建設すると、段階的に施工するよりも次の効果が得られます。

- 手戻り工事による建設費の増大を抑える。
- 社会環境、自然環境に対する影響を抑える。



河川整備計画期間中に整備するダムは、ダム本体と水海川からの導水施設を、基本方針に対応できる規模で建設する。

その他の導水路は、今回の河川整備計画期間以降に実施します。